

# 都市再生整備計画(第4回変更)

あしかりちく  
芦刈地区

さがけんおぎし  
佐賀県小城市

平成24年2月

# 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	佐賀県	市町村名	小城市	地区名	芦刈地区	面積	36.5 ha
計画期間	平成19年度～平成23年度	交付期間	平成19年度～平成23年度				

**目標**  
**大目標：人が集い心豊かに暮らす循環型スローフード・スローライフタウン**  
 目標1：都市機能が集積した活力ある拠点地区の形成と街の顔となる拠点施設の整備によるにぎわいを創出するとともに、農・海産物のブランド化による基幹産業（農・漁業）の再生を図る  
 目標2：有明海のムツゴロウ見学地等の市内観光資源を活用したリバー&シーツーリズム、グリーンツーリズム及びファミリーツーリズムプログラム等と連携した観光集客事業の展開により観光客等の誘致を図る  
 目標3：UD(ユニバーサル・デザイン)仕様の道路や遊歩道、建物等の整備による歩行者や利用者（高齢者、障害者等）の安全性の確保・利便性の向上を図るとともに、緑化事業等の推進により田園景観と調和した快適な空間の創造を目指す

## 目標設定の根拠

**まちづくりの経緯及び現状**  
 小城市は、佐賀県のほぼ中央に位置し、県庁所在都市佐賀市に隣接している地域です。地勢的には、北部に秀峰天山がそびえ、中央部には肥沃な佐賀平野が開けています。計画地区の小城市南部の芦刈町は農業用排水路のクレーク地帯が縦横に広がり、豊穡の海、有明海に面しています。また、芦刈海岸（江港）は、有明海の内側に位置することから、干満の差が日本で一番大きい6メートル以上にもなる特異な自然環境を有し、ムツゴロウ等の干潟干潮動植物の貴重な生息地となっています。昭和61年には佐賀県有明海漁業調整委員会において芦刈海岸全域を日本で唯一のムツゴロウの保護区に指定され、干潟の自然環境の保護・保全活動に積極的に取り組んできています。また、保護区指定と同時にムツゴロウ王国を宣言し、有明海の人気を「ムツゴロウ」を町のイメージキャラクターとして積極的な観光客誘致活動の展開を図ってきており、そうした努力が功を奏し、今では、ムツゴロウを間近で観察できる場所として年間約7万人の観光客が訪れております。一方、平成5年に地域づくり活動団体としてムツゴロウ王国振興協議会が設立され、毎年、イベントの開催、自然環境の保全、緑化推進活動等の積極的なまちづくり活動を実施されてきました。  
 しかし、芦刈町が平成17年3月1日の合併により、小城市となったことから同協議会も解散し、平成17年5月に新たな合併後の地域づくりを担う会員制組織として地縁組織や志縁組織、地域産業団体等多様な主体が参加してムツゴロウ王国芦刈まちづくりフォーラムが設立されました。現在、地域イベントや地域拠点の活性化策等の住民生活に密着したまちづくりについてのワークショップの開催等、行政と住民との協働によるまちづくり活動を実践されております。また、18年度から行政主導による「まちづくり住民会議」を設置し、都市再生整備計画をベースにまちづくりの方向性等について議論を深めています。

**課題**  
 本市の南部に位置する芦刈町は佐賀平野の南部、有明海の内側に位置する純農村地帯であり、昭和40年代以降に農村総合整備モデル事業等の農業生産基盤の整備を行うとともに、生活基盤整備として、農村公園や農道、緑化などを積極的に進めてきたところであります。しかし、近年、住民の生活行動の広域化と多様化が進み、近隣市町への人口流出が激化し、芦刈町の人口は昭和30年の9,028人をピークに平成12年には6,379人にまで減少しています。また、高齢化率も26%を超え、周辺地域と比較しても、急速な高齢化が進行しており、そうした人口の減少や高齢化に伴い基幹産業である農漁業の担い手の減少、高齢化、後継者不足等の問題などが現出し、さらに計画区域の商業・サービス業等の衰退が著しく、過疎化等による地域の活力低下が深刻化しております。  
 このような大きな時代の変化の中にあって、より豊かで安心・安全な田園生活空間を築くためには以下の課題に積極的に取り組んでいく必要があると考えています。  
**人口減少による過疎化対策として、街の顔となる核施設等の整備や緑地・公園等の整備、計画区域内の既存の公園等とのネットワーク化により人が集い、憩い、にぎわう魅力ある拠点地区の形成を図り、人が住む地域ブランド化を構築し、定住促進に繋げ、また、本庁舎設置に伴う芦刈庁舎の行政機能移転に対応していく必要がある。**  
**農・海産物の直売所や加工所等の整備により特産品の開発とブランド化を推進し、基幹（農・水）産業の再生を図るとともに、スローフードや癒しを求める都市住民との交流を促進し、地域全体の活性化に繋げていく必要がある。**  
**拠点地区の形成と交通アクセス条件の改善により当該地区内への沿道サービス産業等の計画的な進出を促進し、新たな地元雇用を確保する必要がある。**  
**広域交流・情報ネットワーク時代に対応した広域交通網の整備・計画により交通アクセス条件の向上を図り、広域的な来町者の増加に繋げる必要がある。**  
**拠点地区における商業集積により生活利便性の向上を図り、近隣市町に流出する購買力に歯止めをかけ、地区内商業の活性化を図っていく必要がある。**  
**急速な高齢化への対応のためにユニバーサルデザインに配慮した施設整備や歩行者に優しいシームレスで快適な移動空間づくりを推進し、高齢者や障害者等に安心・安全な生活環境を提供する必要がある。**  
**機能的でゆとりある土地利用を図るとともに、計画的な生活基盤の整備、歩道に街路樹の木陰を増やすなど潤いのあるアメニティ空間づくりにより質の高い居住環境を創出する必要がある。**  
 以上のような課題に対する対応策としてハード及びソフト事業の連携実施や積極的な民間活力の導入により機能的でゆとりあるまちづくりを推進するとともに、拠点地区の核施設整備を起爆剤として既存の施設・資源を有機的に連携させる面的に広がりのある事業展開により町域は勿論市全域の活性化を目指すものです。

将来ビジョン(中長期)  
**～安全で安心して快適に暮らせる心かよう交流のまち～を実現する活力ある拠点地区の形成と拠点施設の整備による地域生活圏が複合・連携したまちづくり**  
 ・「第4次芦刈町総合計画」(平成16年4月策定)では、県道江北・芦刈線、国道444号線、県道牛津・芦刈線を結ぶラインを中心軸と位置づけ、役場周辺を囲む中心コアゾーンを主核に、産業振興や住宅地ゾーン等の複数の副核、地域核を配置し、地域生活圏が複合した「多核多重構造」の充実を図ることになっており、当該計画地区は、その中心コアゾーンと産業振興、住宅地ゾーンとが重なる芦刈町の交流、流通の拠点であるとともに、社会、経済活動の中心地と位置づけられています。地域の健全な発展と活性化を図り、安全で快適な住民生活を実現していくために、従来の生産者重視から生活者重視へと視点の移り、住み、働き、学び、憩いという機能の充実が必要であり、自然や地域の特性を勘案した土地利用や町の骨格としての中心軸、特定目的施設等の有機的な連携を図ることにより、町全体の活力を高めていくような機能的でゆとりある田園生活空間の創造を目指します。  
 ・「新市まちづくり計画」では、小城市の都市構造のあり方として5つのゾーンと3つの拠点地区に区分しています。その中で芦刈町は「ムツゴロウ王国交流ゾーン」と位置付け、地域資源を活かした「21世紀・環境の世紀」のシンボルゾーンづくりを進めることとしております。また、計画地区は、南部拠点地区として公共施設の充実や都市機能の整備などを行うべきエリアとして位置付けられています。さらに小城市総合計画に掲げた将来像の「薫風新都」～みんなでつくる笑顔あふれる小城市～を具現化するまちづくりの一環として現計画を推進することとしております。  
 ・「小城市都市計画マスタープラン」では、将来都市像を「薫風新都・天山と有明海が織りなす 生活創造都市・小城市 - 」とし、都市機能が集積した都市構造形成のために「拠点地区充実型の都市形成の推進」を図ります。また、マスタープランでは、当該計画区域を芦刈拠点に位置付けています。

## 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
				基準年度	目標年度	
地元購買率の向上	%	芦刈町内小売店舗で買い物する人の割合	特産品開発及び販売核施設等の建設により既存商店の活性化を図るとともに、民間の商業サービス施設や共同店舗等の中心市街地への進出を誘発する。商業集積した利便性の高い魅力ある商業核の形成は、住民のアンケート結果からも推測される潜在的な地元の購買力の掘り起こしに繋がっており、地元購買率の4.6%から5.0%へのアップを見込む。	4.6	平成13年度	平成23年度
交流人口数	人 / 年	有明海ムツゴロウ・シオマネキ保護区への入り込み客及び当地区各交流施設への来場者数	交流施設を中心にムツゴロウ保護区周辺にある観光施設や各種体験プロジェクトと連携した面的な広がりを持つ事業展開により観光客等の増加を見込む。それを足掛かりにムツゴロウ王国芦刈の認知度を高め、既設の公共施設に加え、住民と連携したにぎわいを創出し、地域拠点への交流人口の増加にも繋げていく。	90,194	平成17年度	平成23年度

当該地域の居住者数	比	住民基本台帳登録人口の増加割合	当地区内の道路・歩道のバリアフリー化・緑化推進等や高齢者・障害者に優しい住宅の整備等の生活者重視の施策により快適なUD居住空間を創造・提供することで、少子高齢化の進展や転出等により人口減少が続く当該地区の過疎化に歯止めをかけ、1割程度の人口増加を見込む。	1.0	平成18年度	1.1	平成23年度

# 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p><b>整備方針1(拠点地区のにぎわいの創出)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育環境の充実、地域情報の提供、地域コミュニティの活性化などを旨とし、既存公共施設の機能や利便性の向上を図る。</li> <li>分散する既存公共施設等をシームレスに楽しく移動できる歩道の整備を行うとともに、核施設整備(地域交流施設、物産直売所等)の建設による拠点地区のにぎわいづくりを行う(住民の溜まり場、交流の場を創出。)</li> <li>地元農・漁業者の「顔」の見える農・海産物の直売や、それらを素材とした飲食、地元特産物の展示販売や特産品開発等を強力に推し進め、芦刈の地域ブランドの確立を図るとともに、民間共同店舗等の拠点地区への誘導により、地元購買力の向上を目指す。</li> <li>地域防災計画に避難所として位置づけられている地域交流センターの整備及び耐震改修を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存建築物活用事業(基幹事業/地域交流センター整備事業)</li> <li>地域生活基盤施設(基幹事業/地域交流センター多目的ホール耐震改修事業)</li> <li>高質空間形成施設(基幹事業/植栽、遊歩道等)</li> <li>実験物販所・農村オープンカフェ調査事業(提案事業)</li> <li>物産直売所整備事業(関連事業)</li> <li>地域交流センター等整備基本計画策定事業(提案事業)</li> <li>地域ブランド化推進プロジェクト(関連事業)</li> <li>図書室整備事業(提案事業)</li> <li>佐賀大学・小城市連携地域再生事業(関連事業)</li> <li>事後調査事業(提案事業)</li> </ul>
<p><b>整備方針2(集客交流の促進)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地元の歴史や文化・情報の交流拠点及び情報発信基地の整備並びに観光客・物産一括受発注システムの構築により観光客誘致を図るとともに、分散する既存観光施設や体験プログラム等との連携した事業展開により、リピーターを確保し活性化に繋げる。</li> <li>拠点地区の景観形成に寄与するとともに、住民はもとより来訪者にわかりやすく、主要施設へ誘導する誘導、案内サインを整備する。</li> <li>市民農園を開設し、都市住民と地元住民との農のある交流通じグリーンツーリズムを推進する。また、食育の推進を図るとともに、地元農家の農作業等を支援するシステムを構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民体験農園(関連事業)</li> <li>観光客・物産一括受発注システム構築事業(関連事業)</li> <li>ムツゴロウ王国観光遊漁船リバー&amp;シーツーリズム体験事業(関連事業)</li> <li>農業体験・農作業支援システム構築事業(関連事業)</li> </ul>
<p><b>整備方針3(交通環境の改善及び安全・安心の快適居住空間の創出)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>拠点地区の交流・レクリエーション拠点として公園等の整備によりコミュニティ活動の醸成を図るとともに、人に優しい快適道路・歩道空間の整備による交通環境の改善及び交通アクセス条件や歩行者の安全性の確保を進めることで安全・安心に暮らせる快適な居住環境を提供する。</li> <li>既存の公園の機能向上を図るとともに、駐車場等の緑地化や計画地区内に点在する公園のネットワーク化により一体性を持ったアメニティ空間づくりを行う。</li> <li>地区適地へ民間デベロッパーの資金を活用したQOL(クオリティ・オブ・ライフ)な住宅建設を誘導する。</li> <li>生活環境の充実と街並みにうるおいを与えるために、照明、休憩施設、地域のイベント等に活用できる広場、四季の花々が楽しめる植栽などを計画的に配置することで、魅力ある居住空間にふさわしい自然共生型緑地空間づくりを実現する。</li> <li>少子高齢化社会を見据え、福祉・医療・教育・環境といった地域住民のコミュニティ・サービスの担い手として多様な主体による「まちづくりNPO団体等」を設立し、地域に根ざした特色あるまちづくり活動を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路(基幹事業/道路改良、歩道整備)</li> <li>公園(基幹事業/広場、植栽、ゲートボール場等)</li> <li>高質空間形成施設(基幹事業/遊歩道、植栽等)</li> <li>定住促進計画策定事業(提案事業)</li> <li>景観ガイドライン・街づくりルールブック作成支援事業(提案事業)</li> <li>集落ネットワーク型地域力づくり推進事業(提案事業)</li> <li>一般県道江北芦刈線整備事業(関連事業)</li> <li>芦刈庁舎有効活用事業(関連事業)</li> <li>定住促進支援対策事業(関連事業)</li> </ul>

その他

## やる気げん気がでるまちづくりモデル

### 街の核施設を中心とした面的な広がりのある事業展開の実施

限られた財源の中で、創意工夫により最大の効果を生み出すまちづくりモデル(右図)を創造する。1街の顔となる核施設を整備し、拠点地区の形成を図るとともに面的な広がりのある事業展開により地区全体の活性化を目指す。また、地区内に分散している施設や資源、イベント等と連携することで移動動線の沿線の活性化に繋がっていく。

### 拠点地区のにぎわい創出と街並み景観の改善による快適田園生活空間の創出

拠点地区の核施設となる交流施設の整備や行政、医療・福祉、教育、スポーツ施設等を有機的に結節させるUD遊歩道の整備に加えて、住民の憩いの場として緑地広場等を整備する「職・住・遊・学」を有機的に連携させた新しいまちづくりモデル事業の実施により、拠点地区周辺に魅力ある快適な生活環境を生み出し、民間の参入を誘発し、地元の雇用創出を促進するとともに交流・定住人口の増加に繋げる。

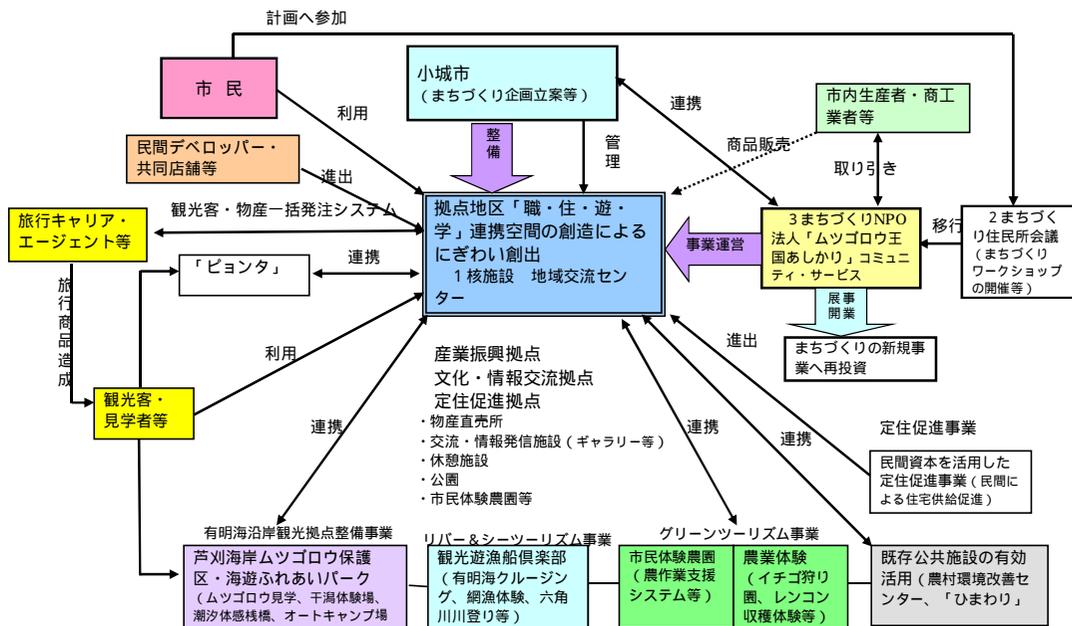
### 継続的なまちづくり活動

当地域では、住民で組織する2ムツゴロウ王国芦刈まちづくりフォーラムやまちづくり住民所(まちどこ)会議が中心となり、施設等の運営・維持・管理活動、イベントPR活動等を継続する組織として3特定非営利活動法人(NPO)の設立の検討・準備を行っている。設立後、黒字を目指す事業運営を担当し、自己完結型ではなく収益部分を新たなまちづくりの再投資していくスキームを確立し、町全体の活性化を図るとともに、まちづくりに関する住民の声をまとめる役割を担い、行政と住民とのパイプ役としての活躍を期待する。

### 交付期間中の計画管理について

交付期間中に各種の事業を円滑に進め、目標を確実にクリアし、より高い効果をあげるために、行政とまちづくり団体等が協働して、毎年、事業進捗・成果についての評価や住民ニーズ等の変化等に対応した事業の進行改善等を行うためにモニタリング並びにHPを使って意見聴取を実施する。その結果については、随時住民に情報公開をする。

## 住民と行政の協働によるまちづくりプロジェクト関連図



交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	343.0	交付限度額	137.2	国費率	0.4
---------	-------	-------	-------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路		市道 牛王・三条排水機場線道路改良事業	市	直	L=207m	19	22	19	22	32.8	32.8	32.8		32.8
公園		三王崎農村公園整備事業	市	直	10,723㎡	20	21	20	21	83.8	83.8	83.8		83.8
古都及び緑地保全事業														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム		-			-									
地域生活基盤施設		地域交流センター多目的ホール耐震改修事業	市	直	801.88㎡	21	21	21	21	1.3	1.3	1.3		1.3
高質空間形成施設		戸崎川遊歩道整備事業	市	直	L=193m	19	23	19	23	27.1	27.1	27.1		27.1
高次都市施設														
既存建造物活用事業		地域交流センター整備事業	市	直	604.00㎡	21	23	21	23	119.8	119.8	119.8		119.8
都市再生交通拠点整備事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										264.8	264.8	264.8	0	264.8

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
地域創造支援事業	景観ガイドライン・街づくりルールブック作成支援事業		市	直	-	20	20	20	20	0.5	0.5	0.5		0.5
	地域交流センター等整備基本計画策定事業		市	直	-	19	19	19	19	4.9	4.9	4.9		4.9
	定住促進計画策定事業		市	直	-	19	19	19	19	4.6	4.6	4.6		4.6
	実験物販所・農村オープンカフェ調査事業		市	直	-	19	21	19	21	3.1	3.1	3.1		3.1
	図書室整備事業		市	直	305.14㎡	21	23	21	23	60.4	60.4	60.4		60.4
事業活用調査	事後評価事業	-	市	直		23	23	23	23	1.5	1.5	1.5		1.5
		-												0
まちづくり活動推進事業	集落ネットワーク型地域力づくり推進事業		市	直		19	23	19	23	3.2	3.2	3.2		3.2
合計										78.2	78.2	78.2	0	78.2

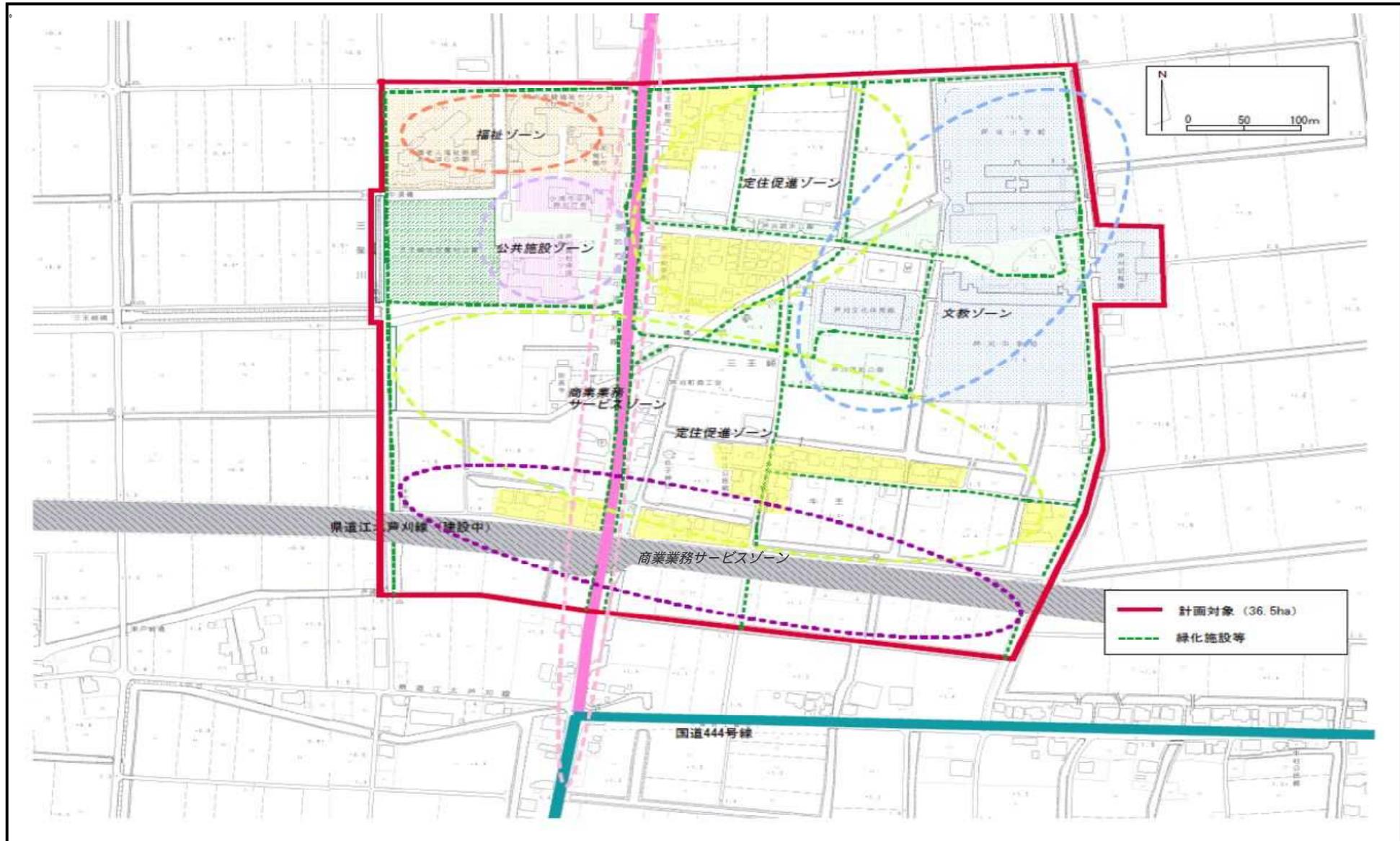
合計(A+B) 343.0

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いずれかに)				事業期間		全体事業費
					直轄	補助	地方単独	民間	開始年度	終了年度	
佐賀大学小城市連携地域再生事業	芦刈地区	市						18	18	2	



都市再生整備計画の区域

芦刈地区(佐賀県小城市)	面積	36.5 ha	区域	小城市芦刈町三王崎の一部
--------------	----	---------	----	--------------



## 芦刈地区(佐賀県小城市) 整備方針概要図

目標	人が集い心豊かに暮らす循環型スローフード・スローライフタウン	代表的な指標	地元購買率の向上 ( % )	4.6 ( 13年度)	5.0 ( 23年度)
			交流人口 (人/年)	90,194 ( 17年度)	100,000 ( 23年度)
			当該地域の居住者数 ( 比 )	1.0 ( 18年度)	1.1 ( 23年度)

